

フェローシップ・ニュース NO. 17

アパリ東京本部と日本ダルクで研修

JICA青年招へい事業 マレーシア薬物乱用防止グループが来訪

5月24日（水）13時～17時にアパリ東京本部と日本ダルクにおいてマレーシアの薬物乱用防止グループの人たち約20名が研修に来ました。

最初に、アパリ理事長で日本ダルク代表の近藤恒夫よりご挨拶と日本の薬物事情を話しました。その後ダルクによるモデルミーティングが行われ、「なぜ私たちはここにいるのか？」というテーマで行われました。これには通訳がなかったため、何が話されているのかわかっていなかったようですが、このような形式のミーティングを中心にプログラムが行われていることがわかっていただけだと思います。その後ダルクメンバーとマレーシアの方たちとの交流が行われ、熱心に質問が飛び交いました。

<近藤恒夫の講演 日本ダルク・デイケアにて>

ようこそ、こんな汚いところに（笑）。ここは、デイケアです。ここでは一日2回のミーティングをします。スタッフはナースとドクター除いては薬物依存症者のリカバリングスタッフです。つまり当事者が当事者をサポートするという役割に変化している。ここにいる人たちはいろんなところから集まってくる。このビルの上やその他からだいたい35人くらいいます。

私はここ以外にNAのアジア地域の方にも関わっています。毎年APF（アジアパシフィック・フォーラム）の手助けをしています。APFは今年はタイ、来年はネパール、過去にはマレーシア、日本やシンガポールで開かれたこともあります。他にダルク、アパリ、アパリクリニックを運営し、薬物依存症者が社会的、霊的、精神的に、薬物のみならず多重債務、離婚問題など付随する全ての問題を整理するよう努めている。ここに来ると依存症の診断、頭へのダメージ等はクリニックで、離婚問題、サラ金問題など法的な問題を解決するところは、NPO法人アパリで対処出来る。この活動を通じてダルクは日本で約40ヶ所の地域に出来た。国家のお金は一銭ももらっていない。その意味では自由に出来る。依存症者が国家のお金や、過剰なサポートを受け取ると新たな問題を作り出します。つまり当事者が回復するためには自立、人に頼らない、ということです。国家からお金をもらえればいいが、日本では犯罪者に税金を使うわけにはいかないという考え方です。だから運営が大変、自分で考えてやらねばならない。でもよく今まで20年間もちました。

お金がない人はどうやって通ってくるかというと、「生活保護」という制度がある、その意味ではまるっきり頼ってないということではない。生活保護という制度は病気によって生活が困窮し、仕事が出来なくなっているからそれをサポートするという考え方です。我々は東京都に申請をしているのですが、そちらの仕事の方が大変です。だいたい30才で13万くらをもらっている。その中からこのミーティングに通う交通費、夜のNAミーティングの交通費等を請求

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日
2006年7月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute) の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

マレーシア薬物乱用防止グループ来訪	1
マック・ダルクソフトボール大会…サム	3
体験談…シンジ	4
体験談…テト	5
ドラッグ・コト専門家協会会議にて…尾田	6
ロサンゼルスからの報告…嶋根	7
アパリからのお知らせ	8



最初に近藤恒夫（理事長）からのご挨拶



ダルクのメンバーも熱心に聞き入る



ダルクメンバーとマレーシアの人たちとの交流



マレーシアの人たちから熱心に質問が飛び交う



最後に尾田事務局長から日本の司法制度、米国ドラッグ・コート制度についての講義

できる。ここ[=日本ダルク・デイケア]で2回、夜7時からの外でのミーティング、計3回のミーティングに出るのが唯一の規則です。ではなぜ3回ここでやらないのか？ここはあくまでも通過点。いつかは社会に戻っていく場所ですから、ここが沈殿されても困るので、施設の外に通う場所が必要。そうしないと風通しがよくない。ここには30人~35人が通い、夜のミーティング（NA）に通うと、その人達はダルクとは関係なくなる。ここは多くの人達が集まるところであり、ダルクは通過していく場所。ここでやっているのは、12ステップに基づいたもので、皆はそれで成長していく。つまりNA（ナルコティクス・アノニマス）のプログラムを借りてやっている。ここを出た後も、NAを続けて行く。ここでやっていることと、社会復帰したときにやるのが違うと難しい。プログラムはシンプルにした方がいい。

しよくざい
贖罪 寄付を受け付けています！

薬物事犯で逮捕された刑事被告人の贖罪寄付を受け付けます。アパリにご寄付いただいた後、領収証と感謝状の発行をいたします。それを裁判の参考資料となるようお手伝いいたします。

寄付の用途をご指定することもできます。例えばリハビリ施設の修繕費用や国際協力活動など。

ご希望の方はご相談に応じます。

【贖罪とは、罪を償うという意味です。】

＜マレーシアの方たちとダルクとの交流（質疑応答）より＞

ダルク：マレーシアで一番出回っている薬物は？
マレーシア：ヘロインと大麻とシャブ（覚せい剤）。
ダルク：ウオー！（一同拍手）
マレーシア：今ここにいる人はどのような薬を？
ダルク：シャブ、大麻、シンナー、ハッシッシ、コデイン。
マレーシア：さっきミーティングでどういうことを話していたのか？どんな話を？
ダルク：自分の話、抱えている問題。テーマは「なぜ私たちはここにいるのか？」
マレーシア：ご家族はどのような反応をされているのか？受け入れられているのか？
ダルク：家では受け入れられていない。あなたはあなた、私は私。
マレーシア：ここでは注射するのか？ 飲むのか？
ダルク：注射か、煙で吸う。注射の方が気持ちいい
ダルク：マレーシアでは一番多い年齢層は？
マレーシア：20代~35歳まで。
ダルク：日本では小学生・中学生から、上は60代まで。シャブなどを。
マレーシア：マレーシアでは女性、未成年者のように別々のセンターで回復のプログラムをやっている。
ダルク：日本では東京に女性の施設がある。一緒にいるとすぐにはなくなるからです。それを13ステップと言っている。
マレーシア：ここで一番長い方はどのような変化があったか？
ダルク：17年くらい。まず、こう、自分の内面を見つめられるようになった。今までは自分の暗い部分等を見られなかったが、見られるようになった。自分が今どういう気持ちでどう感じているのか意識して生活できるようになって、どうしていけばよいのか考えられるようになった。（一同拍手）
マレーシア：マレーシアから薬物乱用防止のビデオも持ってきたが、一緒に見ませんか？
ダルク：賛成（一同拍手）
ダルク：マレーシアでの量刑は？
マレーシア：所持と使用で違う。所持は一定量以上持っていると死刑？使用はちょっとわからない。
ダルク：マレーシアでは薬物のリハビリのプログラムはあるのか？
マレーシア：TCがある。マレーシアは政府運営が29箇所。それ以外に民間もあるし、NAもある。そこを出た人は、彼女たちのようなカウンセラーから2年間監督される期間が与えられている。
近藤：再発したらどうするのか？
マレーシア：一つは、罰せられる。最高で3年間の懲役と鞭打ち1回、鞭打ちは最高で3回。あとは、リハビリセンターに戻したりします。

近藤：日本では再犯は3、4年の刑になる。それが刑務所の過剰収容の一因となる。裁判官も全部刑務所に入れたら解決、と思ってる人が多い。あるのは病院と刑務所、鍵を閉めて突っ込んでおく。そういうシステムがずっと続いている。

ダルクスタッフ：病院は2,000床しかありません。

近藤：だから、ここは特別な施設。地域の中で回復者を出していくシステム、地域の中で社会資源を作っていくのがダルクの役割である。

マレーシア：この中で日本の一番遠いところから来たの人はどこから来たのか？もし、東京以外から来ている方で、周りで薬物を使っている人がいて、その人のために何かグループを作りたいか？ また、どんなグループを作りたいか？

ダルク：九州、北海道など。みんな思っている。ここにいる人は地元に戻ってダルクを立ち上げるといのはダルクのスタイル。ここ（日本ダルク）が全部コントロールするかと言えばそうでない。ここは手を貸さない。やりたい人がやると…だから広がっていったんです。

マレーシア：社会から受け入れられていないと聞いたのですが、社会に望むことは何かあるか？

ダルク：仕事を探すときに正直に言えば受け入れてもらえない。履歴書に嘘を書かなければいけない。刑務所に入っていた期間とか。他の国では受け入れられていると聞く。受け入れられれば、回復してから希望をもってやっていける人が多いのではないかなと思う。

マレーシア：マレーシアでも同じようなことが起きている。

ダルクスタッフ：病院に入る際にも言えば受け入れてもらえない。薬物を使っていたとか、既往歴があると断るところが多い。なので、県外に探しに行かねばならないこともある。

マレーシア：本日はお忙しい中、ありがとうございました。みなさんが成功するよう遠いところから応援しています。私たちも頑張ります。

「薬物依存」DVD販売中！

アパリが作成したDVDで本人の体験談や、近藤恒夫の話が約30分間収められています。学校での薬物乱用防止教育、行政の職員の研修で利用されています。

1枚 3,000円

FAX : 03-5830-1791
メール: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

春の恒例 マック・ダルクソフトボール大会

報告：サム



アパリ藤岡チーム 試合前



試合終了後に記念撮影

5月23日（火）毎年恒例のソフトボール大会が荒川の河川敷で行われました。この大会は、マックとダルクのフェローシップ（仲間意識の形成）が目的です。ゴールデンウィークも終わり、ちょうどみんな退屈していた頃でした。若干練習不足でしたが、日本ダルクチーム、東京・埼玉・川崎ダルク連合チーム、アパリ藤岡チーム、みのわマックチーム、リブ作業所・山谷マックチーム、埼玉マックチームの6チーム総当りのリーグ方式で行われ、全試合は消化できませんでしたが、優勝、準優勝とか決める事はなく、あくまでもフェローシップが目的です。

「病院に帰って出直せ」とか「ミーティング100回」とか野次の飛ぶ中、皆さんホームラン狙いで大振りするのですがショートゴロばかりでした。でも、各チームには守備のうまい選手やバッティングの良い選手もいました。

私はアパリ藤岡チーム監督（勝手に）ですが、バッターボックスに立ちセカンドのエラーで出塁しホームベースを踏みました。しかし気持ちだけが先走って足がついていかず思わずゆっくり走ってしまいました。試合の結果は三点差の逆転勝利でした。久しぶりに大きな声を出せし、日頃使わなくなっている身体の部分を使ったので快い疲労感でした。

藤岡チームの打順はメンバー全員なので監督の指示は難しかったですが、是非とも夏頃にまた親善試合を開催したいと思います。天候は曇りでしたが、試合が終わって施設に戻る頃に小雨が降りだしました。ハイパーパワーの力でしょうか？

我々と試合をしたいチームがありましたら、アパリ・サムまでお電話ください。

アパリ藤岡研究センター 入寮者からのメッセージ

「アパリ藤岡に繋がって・・・2度目の受刑生活を終えて」 シンジ 30代男性

刑が確定して、東京拘置所の分類で関東近郊の受刑施設を希望するも、本来ならば、LB（長期刑の再犯者）用の受刑施設である北海道のA刑務所に、2年の短期刑で服役を余儀なくされ、3分の2以上が無期刑を含む長期刑の受刑者と共に生活することになりました。現在A刑務所での生活を終えて、そこでの出来事を振り返ってみると、本当に色々な事を体験することができました。

私にとって2回目の受刑生活でしたが、前刑は東京拘置所での服役でしたので、生産工場のある一般刑務所での受刑は今回が初体験となりました。さて、蓋を開けてみると、今回の受刑は私にとって、大きく人生観を変える貴重な経験することとなりました。懲役に行ったにも関わらず、今回の服役は今後の生涯を送っていく上で少なからずプラスになったと思っているから不思議です。まず、そこが終の棲家になることになるかも知れない無期刑や長期刑の方々と暮らし、会話をし、色々な助言をされたことで、きっと初めて人間の一生について考えさせられ、また今後の自分の人生の生き方について心底深く考えることになりました。その結果、湧き上がってきた素直な答えは、もう再び「塙の中で自由を束縛されて生きる生き方」、そこへ通じる「薬物を使った生き方」は、ゴメンだというものでした。

私は今回の受刑に際して、家庭・職場・社会的信頼など全てを失ってしまいました。薬を使う人生に費用対効果などある筈も無く、あるのはリスクばかりだと悟りました。また、服役中に懲罰を喰らい、15日間座ることになったのですが、その期間はTVの視聴は勿論のこと、ラジオも読書も筆記もできない状況下に置かれ、できることと云ったら、ただ考えることのみでした。普段では考えも及ばない色々な思いが頭を過ぎりましたが、中でも自分の生い立ちから遡り、現在に至るまでの過程について深く考えました。その結果、自分が薬物依存症になったきっかけによろやくたどり着きました。

2度の服役に至ったそもそもの原因である自分の人生が狂い始めた原点に立ち返れたのです。

そうすると、次に浮かんできたのは、現実的には原点には戻れないにせよ、今後の生活の指針をどのように改めれば良いのかを思索できたのも大きな収穫でした。元々プラス思考のせいでしょうか？この懲罰も私にとってプラスとなったのです。

刑務作業についてですが、配役された役場が主に外役工場だった為に、1年間の中でも雪に閉ざされている長い期間、ほぼ毎日除雪作業中心の重労働でした。昨日除雪したばかりの場所なのに、翌日になると再び軽く50cmも積もっており、真冬の外気温は-20度を下回る日もあることはザラで、時折見られるダイヤモンドダストを眺めながら、ひたすら除雪々々・・・毎日がその連続でした。

その後、外役工場の中でも得役とされる、刑務所外にある農場までマイクロバスに小一時間揺られて農作業をするという、文字通りの通役工場に昇格し人生初となる、農作業に従事しました。普段何気なく口にして農作物が、どれだけの苦労を経て作られてきたものなのかを学びました。生まれも育ちも東京であった私にとって、北海道の大自然はとてつもなく豊かであるのと同時に過酷であり心身ともに鍛えられました。北海道という土地柄のせいなのでしょう、刑務官の方々の人柄はとて穏やかで温厚でした。東京で暮らしている人には無い、人情味というか、人との触れ合いの温かさの大切さを垣間見ることができたのも、大きな収穫でした。

さて、ここで私がどうしてこの文章を書いているのか、その過程を説明します。

私は1度目の服役後すぐに、社会復帰を果たしたのですが、失われた時間を取り戻すべく、今まで以上に仕事に打ち込みました。過度なスケジュールに自分を追い込み、寝る間も無いぐらい働いたあげく、仕事のプレッシャーや対人関係などのストレスから解放されたいあげくに、事もあろうか再び薬に手を染めてしまいました。正に本末転倒という他ありません。

そして、今回の服役を迎えることに至ったのです。留置所にブチ込まれて痛切したのは、咽元過ぎれば熱さを忘れてしまい、辛かった1回目の受刑生活を教訓にすることができず、再び薬に手を出してしまった自分の意思だけでは止める事ができない薬物に対する無力感でした。

そこで私が選んだ選択肢は、服役後は直ぐに社会復帰を焦り仕事に従事することではなく、二度と薬を使わない生活をする為の方法として、私の身体の中に巣食っている薬物依存症という根深い病気と対峙するべくAPARIの施設に入寮することを選んだのです。ここでの生活も、1ヶ月が経過して徐々に慣れてきたところです。

ここは群馬県藤岡市の標高700Mという山の上であり、周囲は森に囲まれており、近くにゴルフ場が隣接はしていますが、一番近くのコンビニまで、歩いたら1時間位かかるんじゃないかと、言うようなロケーションです。

この施設には、約20名の入寮者がいて、皆な薬物依存症の人間ばかりです。1日のスケジュールは、毎朝9:30午後13:00の2回、各1時間ずつ施設内でミーティングをし、夜は19:30～21:00まで、近郊の町である前橋や高崎、渋川などの教会や公民館で開かれているNA（ナルコティクス・アノマス）という、薬物依存症者の自助グループによるミーティングに参加しています。これはAPARIの人間だけではなく、精神病院や他のダルクの施設の人や、社会に出て一般に働いている人間も一緒になって行われています。ミーティングとは、その日のテーマ（例えば、薬を使っていたときの自分とか、薬物の欲求についてとか・・・）を決めて、基本的にはそのテーマに沿った内容の話を、各自が体験談や現況の話をするもので、発言者以外は聞いているだけで、質問や討論をするものではなく、言いつばなしの聞きつばなしで、自分が思っていることをその場で吐き出すことで、精神的にストレスを軽減させて、取り敢えず《今日一日》薬物を使用しないで生きていこうという《JUST FOR TODAY》をモットーにしたものです。



藤岡の犬たち

**アパリ発行
「Born・Again（ボーン・アゲイン）」
体験談 販売中！**

2005年5月に第二版が発売になりました。

体験談が13人分収められています。

アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人の差し入れ用として使っています。

1冊 1,500円

お申込はメールかファックスで

FAX：03-5830-1791

メール：info@apari.jp

ご住所、お名前、電話番号をご記入の上

お申込下さい。

私なりにグループセラピーの効果を期待しているのだと解釈しています。他者の発言の中に、自分と同じモノを見つけたり、もっとひどい思いをしている人の話を聞くのは、身に積まされる時もあるし、あまりにもヘビーな話には打ちのめされたりしています。

初めは、大勢の前で自分の話を上手に出来ませんでした。現在では自分の忌まわしい過去を洗いざらい話すことが出来るようになって来ました。一種のカミングアウトですね。

それをする事で、自分の身にのしかかった重たい過去の荷物を少しずつ降ろしていつているようで、発言をする度に精神的に楽になってきていることを実感しています。また、「薬を使わない生き方」を選んだ仲間達が支えとなり、今後の薬物ナシの生き方を真剣に考え、それを実行していけると、日々決意を新たにしています。

仮釈放された時に保護観察所にて申し出ました、任意で行う覚醒剤の簡易尿検査を受けてきました。出所以来、覚醒剤を始めその他の薬物も当然使用していないものの、今回受刑するきっかけである逮捕時の決め手となった警察署での尿検査の記憶が甦り、万が一にも陽性反応が出たらどうしようと、いらぬ心配をしながらも若干の緊張状態で検査に臨みました。

保護観察官立会いのもと、妊娠検査薬のような形状をしているプラスチックのプレートの真ん中にある試験紙にスポイトで尿を垂らして、覚醒剤反応を確かめるのですが、結果は2本の線が浮かび上がってきて晴れて『陰性』となりました。それと同時に、「これからも止め続けていくんだ!」と言う意志が固まりました。検査を終えた率直な感想ですが、精神的にかなり楽になりました。

『あなたのこれまでの断薬の努力は大変素晴らしいことです。次回の検査も陰性の結果となるようにまた、今日からの一日一日を大事に過ごしてください。』と書かれている検査結果の証書を貰い観察所を後にしました。

ここでの生活を終え、社会復帰をした後でも、生涯『陰性』でい続けられるような生活を送るためにも、今はこの施設で今までの自分を変えていく為の道しるべを、日々模索しています。私にとって大切な誰かの為でもあります、何よりもたった一度しかない自分の人生なのでありますから。

スタッフから：

シンジさんは、アパリの司法サポートを受けた方（約120名）の中で、再犯者第一号です。彼が逮捕されるまでは、アパリの司法サポートを受けた人の再犯率はゼロと謳っていましたが、われわれにとっては衝撃的な逮捕となりました。

しかし、逮捕後すぐに連絡をくれて面会に行き、再度アパリで司法サポートを受け、アパリの尾田事務局長を身元引受人として旭川刑務所で受刑生活を送っていました。

先日、無事に出所し、尾田が旭川まで出迎えに行きました。

「T e t の藤岡日記 STEP1」

○月×日 _____

黒羽刑務所の重い扉が開いた。
白っぽい灰色の壁、湯気をたてるボイラーの管。昔見た「シド&ナンシー」のラスト近くのシーンにそっくり。
失意のまま、シドは再使用して死ぬ。不安だらけの未来。だが、俺はまだ死にたくない。

「希薄な人間関係の場所」
刑務所のことだ。
灰色の生活は、しかし白と黒とにはっきり分けられている。
漠の光と影のような戒律の支配に、感情の入り込む優しさはない。
独居でノートに書き続けた想いを、行き場を失っていた言葉を、この藤岡の地で解放してやろう。

○月×日 _____

ミーティングのテーマは「ステップ」。
過去、使っていた頃、全てに失望していた。正直な自己表現なんか出来なかった。
当然、言葉によるコミュニケーションに否定的だった。
「言葉は嘘を生む」という理由をつけて。

12ステップのことはまだ良くわからない。「ステップ？」
確か、荒れ地とオアシスの中間地帯も「ステップ」じゃないかな？
雨の季節には草原になり、乾期には砂漠になってゆくという広い広いボーダー。
もう一度オアシスへ戻っていきたい。この「ステップ」を通過して。
歩き始めたばかり。方角もよく分からない。
この広い回復の道程で、俺は本当に小さく弱い存在だ。

○月×日 _____

割り当てられた400号室、通称「近藤部屋」は「小さく、弱い存在」であふれていた。
カメムシをはじめ、その他「存在」に対し、俺はとうとう戦う決意を固めた。
圧倒的に多数で迫り来る「敵」に対し、俺は割算でつまみ、トイレに流す。
終わりなき戦い。奴等はシラフでも飛べる。
不毛な戦いに敗北を認め、窓の外を見る。無力とはこういうことか。
西に傾きかけた午後の日差しが眩しい。
力ある緑におおわれた山々。
無限の生命が宿るこの地で始まった新しい日々。
都会で、自分達が作り出してきた「何か」と戦い続けていた日々。俺は何て愚かだったのだろう。



テトが、大浴場を改造して作った音楽スタジオ

2nd Asia Pacific Institute of Addictions [06, 9, 3 ~5]

シンガポールで開催される第2回アジア太平洋地域依存症会議にアパリから2名参加し、アパリの活動や日本の現状について報告する予定です。他にワンデーポート（強迫的ギャンブラーの回復施設）からも報告予定です。



ロジネック判事夫妻と共に

○月×日
悲しみのあまり石になってしまったハートの話。
これでこれ以上傷つかずに済む。
失いたくない。守り続けるために。
そして徹底して無意味な遠い世界の話に
救われたような気になっていた。
気がつくと、石ころのハートもひびだらけ。
そんな自分に快感すら覚えていた。
----- 今日の施設内ミーティング、自分の話より。

○月×日
近隣の施設のフォーラムへ。
毎日同じ物を着ている俺。”刑務所つながり”だから仕方ないけどね。
人の多くいるところがまだ少し苦手。都会の孤独に安心してた頃の自分が現れてくる。
そして、何てみんなよくしゃべるんだろう。でも自己表現なしには人間生きていけないもんなあ。
でも大事なことがひとつわかった。
話のもつ意味性などではない。
声のトーン、話題の持つ色、言葉のリズムとテンポ、そして表情としぐさ。
イメージなんて抽象的なもの、真実のかけらのようなものは
そうやってハートに伝わっていくんだ。

パンドラの箱を開ける。
ミーティングという安全な場を通して。
あらゆる手段の自己表現を通して。
今まで目をそむけ、固く閉ざしていた扉を、
ここ群馬の地で解き放っていくんだ。

フォーラムの会場はビルの最上階。
街の向こうに見える赤城と榛名の山。
変わりゆくものと変わらないもの。
この地にどれくらいの期間がいることになるのだろうか？
一年後、俺はどんな生き方をしているのだろうか？

(次回につづく・・・)

全米ドラッグ・コート専門家協会(NADCP) 第12回研修会議に参加して (2006年6月21~24日)

事務局長・尾田真言

アパリでは、刑事司法制度の中で、薬物事犯者に対して薬物依存症治療が義務付けられるような制度の創設を目指して、現行法の枠内で、これまで保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラムや、受刑者の身元引受および通信教育、仮釈放日からの薬物依存症リハビリ施設への入寮など、各種先進的施策を実施してきた。特に参考にしてきたのが米国のドラッグ・コート制度である。

私は、ドラッグ・コートが1989年にマイアミで創設された6年後の1995年から毎年開催されている年次研修会議に、第9回~第11回に続き、シアトルで開催された第12回にも参加した(2006年6月21~24日)。今年のテーマは、「回復のためによりよい連携を」であった。NADCPの年次研修会議は大きな会議で前回は2,400人、今回は3,000人の参加者がいたという。参加者の内訳はドラッグ・コートの実務家(裁判官、検察官、弁護士、保護観察官、ソーシャルワーカー、カウンセラー、裁判所やリハビリ施設の職員)と関連団体の関係者(自助グループ、薬物検査キット販売業者、出版社等)である。次回の年次研修会議はワシントンDCで2007年6月13~16日に開催される。

1、ドラッグ・コート制度の確立

1989年に薬物事犯者に対するフロリダ州デイド郡の裁判所のプログラムが試みられ、その後、ドラッグ・コートの成功が全米に増殖されて行き、今日ではもはや新規性のある試みではなく、全州においてごく日常的な業務となっている(ドラッグ・コート数の推移については図1参照)。

2、アメリカにおける覚せい剤の流行

アメリカで現在最も流行している薬物は日本と同じく覚せい剤であるが、その中毒性及び依存性の強さから大問題となっている。



会議場の前で(尾田)

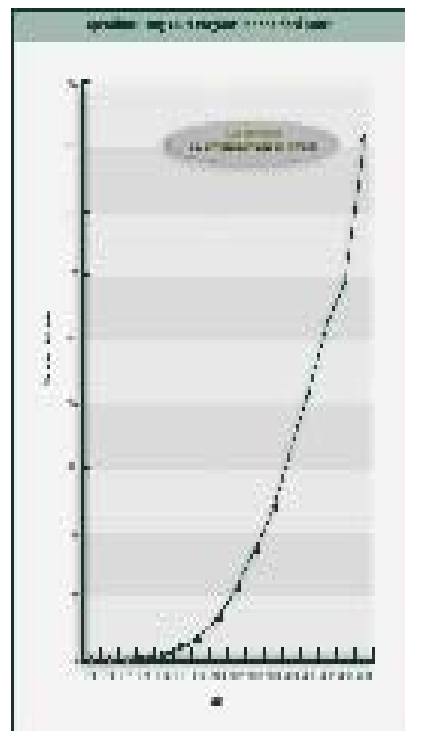


図1 ドラッグ・コート数の推移について

3、科学的根拠に基づく実務(EBP=Evidence Based Practice)について

EBPは最近、犯罪学の領域でも流行している言葉であって、ある治療法が有効であるかどうかを過去の慣例や個人の勘ではなく科学的根拠によって評価しようとするものである。今回の約140のワークショップ中、モチベーション・インタビュー、再発防止プログラム、トリートメント・プロバイダーの評価、少年ドラッグ・コートの処遇、処遇方法、州政府との連携、青少年に対する実験的なセラピーの7つにevidence-basedという用語が用いられていた。

NADCPについては、<http://www.nadcp.org/> 参照。なお、フェローシップ・ニュース11号3頁には昨年の総会の様子がレポートされている。

カリフォルニア州ロサンゼルスにおける薬物依存症治療の紹介
 <Part1.マトリックスプログラムの紹介>

研究員・嶋根卓也

覚せい剤依存症者向けのプログラムとして実績を挙げているMatrix Modelに関する研修を受けるため、和田清先生（国立精神保健研究所 薬物依存研究部長）ら10名で、6月上旬ロサンゼルスを訪ねました。今回は、Matrix Modelについて簡単にご紹介したいと思います。

Matrix Modelとは、1980年代アメリカ西海岸のコカイン流行を受けてUCLA付属研究所(UCLA Integrated Substance Abuse Program)が開発した薬物依存症治療プログラムのことです。①集中的な外来型のプログラム（週3回）②徹底的なマニュアル化（ワークブックや配布資料の活用）③行動変容を促すためのアプローチ（認知行動療法）④自助グループ(NAやAA)への参加を促す ⑤定期的な尿検査・呼気検査（週1回）⑥家族向けのプログラムといった点がMatrix Modelの特徴です。

プログラム参加者の多くは、富裕層かつ高学歴層（だと、自負している）の出身とのことでした。どうやら、保健医療分野の流行りとなっている、いわゆるエビデンス（根拠）に基づいたプログラムを好む人たちに合っているプログラムのようです。このような人たちには、科学的な調査研究に基づいて、有効性がハッキリと示されているプログラムが好まれるのでしょうか。ただし、プログラムの最終的な目標は、NAなどの自助グループにつなげることであり、内容も12stepプログラムと重なる部分がほとんどです。依存症に対する否認が強く、自助グループへの参加を受け入れにくい段階にある人にとっては、カウンセラーなどの専門家主導で、自助グループまでのガイドをしてあげるアプローチも有効だと感じました。



研修を担当してくださったJeanne L. Obert

嶋根卓也 研究員

今年4月より、国立精神・神経センター 精神保健研究所・薬物依存研究部 協力研究員に就任。

標準的なマトリックモデルのプログラムスケジュール（4ヶ月コース）

INTENSIVE OUTPATIENT PROGRAM SCHEDULE (Exact times and days will vary)						
Week	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday & Sunday
Weeks 1 Through 4	6-7 pm Early Recovery Skills 7-8:30 pm Relapse Prevention		7-8:30 pm Family Education Group		6-7 pm Early Recovery Skills 7-8:30 pm Relapse Prevention	12-Step or Other Support Group Meeting
Weeks 5 Through 16	7-8:30 pm Relapse Prevention Group	12-Step or Other Support Group Meeting	7-8:30 pm Family Education Group or Transition Group	12-Step or Other Support Group Meeting	7-8:30 pm Relapse Prevention Group	
Weeks 17 Through 52			7-8:30 pm Social Support			
12-Step activities on site Urine testing and breath-alcohol testing conducted weekly One individual session is included in each of the programs phases						

詳細はMatrix Institute on Addictions (<http://www.matrixinstitute.org/>)を参照してください。

アパリは5階に引っ越しました！

今までいたサニーハイツ東上野の1階から同じビル内の501号室に移りました。エレベーターもないためご不便をおかけいたしますが、何卒ご了承ください。

なお、郵便物は今までの住所で構いません。



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

○アパリ東京本部

〒110-0015
東京都台東区東上野6-21-8
電話：03-5830-1790
FAX：03-5830-1791
メールアドレス：info@apari.jp

○アパリ藤岡研究センター

〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313

【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

【入寮期間】

基本的に9ヶ月

【入寮費】

月額16万円(生活保護の方も可能)



ホームページもご覧下さい
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者：近藤恒夫
編集責任者：志立玲子
平成18年7月1日発行
定価 1部 100円

＜アパリの司法サポート＞

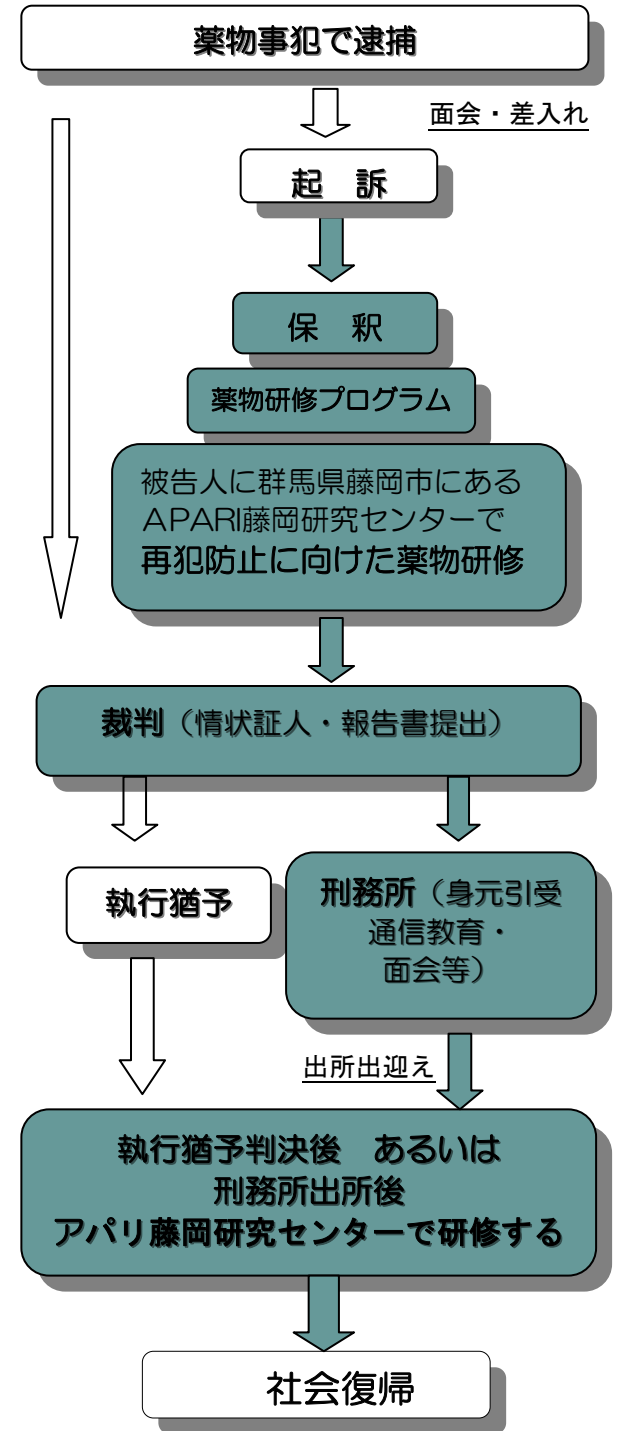
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま 執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において初めて、刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。最近では特に、受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です] お問い合わせは東京本部まで

アパリでの支援



＜家族教室＞

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

対象：薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

日時：第1・第3月曜日 18：30～21：00
第4日曜日 14：00～16：30

場所：アパリ東京本部 2階

参加費：3,000円

【お問い合わせは東京本部まで】

＜個人カウンセリング＞

対象：薬物依存症などの諸問題を抱える本人、家族など

費用：1時間9,000円

場所：アパリ東京本部内

カウンセラー：川口るり子

[薬物依存症専門カウンセラー。米国薬物依存症リハビリ施設でカウンセラーとして勤務経験あり] ※英語でのカウンセリングも可能

アパリ 新会員募集中！！

新規会員（正会員・賛助会員）を募集いたします。ご入会していただいた方には、会報「フェローシップ・ニュース」を毎号お送りします。また、書籍購入の割引や公開講座・フォーラム、自助グループ開催に関する情報提供等、様々な特典がございます。

《年会費》正会員：12,000円
賛助会員：6,000円

●新規会員

同封の郵便振替用紙にて正会員・賛助会員のご希望の方に丸をつけ、必要事項をご記入の上、郵便局にてお振込ください。領収証の発行をもって受付とさせていただきます。

●継続会員

継続の会員の方で平成18年度の会費の納入がお済みでない方は、同封の振替用紙にてお振込ください。